

○サザンカの一園芸品種、寒ツバキと同じく獅子頭(シシガシラ)について(津山 尚) Takasi TUYAMA: On *Camellia sasanqua* Thunb. cv. *Kantsubaki* and cv *Shishigashira*

本誌 Vol. 7 (No. 3): p. 3 に発表された *Camellia sasanqua* Thunb. var. *Fujikoana* Makino について東北大学名誉教授木村有香先生から私信を受取ったのは今から10数年前のことである。氏の文意は上記 var. *Fujikoana* Makino は津山・二口: 日本椿集, p. 400, t. 227 (1966) に記載された寒椿 (Kan-tsubaki) と同一の taxon ではないかと思うが、確めてくれとの主旨であった。氏は更に var. *Fujikoana* は同氏の夫人の実家の庭園にあったものを type として、夫人の富士子(または富士)氏の名を記念してつけられたものであると書かれた。このことは牧野富太郎先生の原発表を見ても明らかであることが分った。小生はこのことに気がついていなかったで、木村氏が発表して下さるよう手紙でお願いした。同氏は津山がツバキの研究をしているから是非小生に書くように要請され、追いかけるように神戸にあった var. *Fujikoana* のタイプ株を仙台に移植された株からの、満開の生品標本を送って来られ、更に後に挿木で繁殖した苗も送付された。これらは正に小生の宅(文京区小日向)に栽培中のカンツバキと寸分異ならぬサザンカの園芸品種と認められた。互に譲り合っているうちに年月はたつて、サザンカの園芸品種の研究は他の方々の努力で進み、印刷された文献に関する限り、小生の寒ツバキは獅子頭より発表の年代がおそいことが判った。これを調べたのは山崎富佐子氏である。氏によると1894年(明治27)日本園芸会雑誌59号に福井万衛門氏が記載した獅子頭がカンツバキと全く同一の園芸品種というのであるという〔日本椿協会(編): 現代椿集 1972年(昭和47)〕。福井氏の記載文はカンツバキと全く同一品種であることを示している。小生の椿集では最も古いカンツバキの出典を皆川治助(編)椿花集〔第1版〕1933年(昭和8)としていた。ここで国際園芸植物命名規則によるとカンツバキの園芸学的な正名は *Camellia sasanqua* cv. *Shishigashira* とすべきことになる。寒椿の名は江戸時代の印刷されない写本類にしばしば見られ、それが必ずしも同一の園芸品種を示していないことを示している。国際園芸植物命名規則によると園芸品種の命名は植物学的命名(すなわちラテン語的命名)よりも雅名(fancy name)を採用することが勧められている。園芸植物の命名は国際植物命名規則によるものと、国際園芸植物命名規則による二通りの命名が可能であるが、後者による命名が推賞されているのである。

なお故中井猛之進教授によるとカンツバキは *Camellia hiemalis* Nakai〔本誌 Vol. 16 (no. 12): p. 695 (1940)〕とされている。これはツバキ属の新種としてあつかうことができないのは広知のことである。それにも関らず、諸外国の文献に今もなお独立種としてあつかわれている例が多い。中井教授が同時に発表された *C. hiemalis* var. *micrantha* Nakai は今日でも何物であるか不明である。結論として Horticultural name は以下の通りである。



Fig. 1. 寒椿 (カンツバキ) *Camellia sasanqua* Thunb. cv. 'Kantsubaki'. 津山尚(文)・二口肇雄(画): 日本椿集 (*Camellia cultivars of Japan*) t. 227, 1969. Original colour painting by Yoshio Futakuchi in December, 1965. This plate was based on the plant in Tsuyama's private garden transplanted from Minagawa's genuine cv. 'Kantsubaki'.

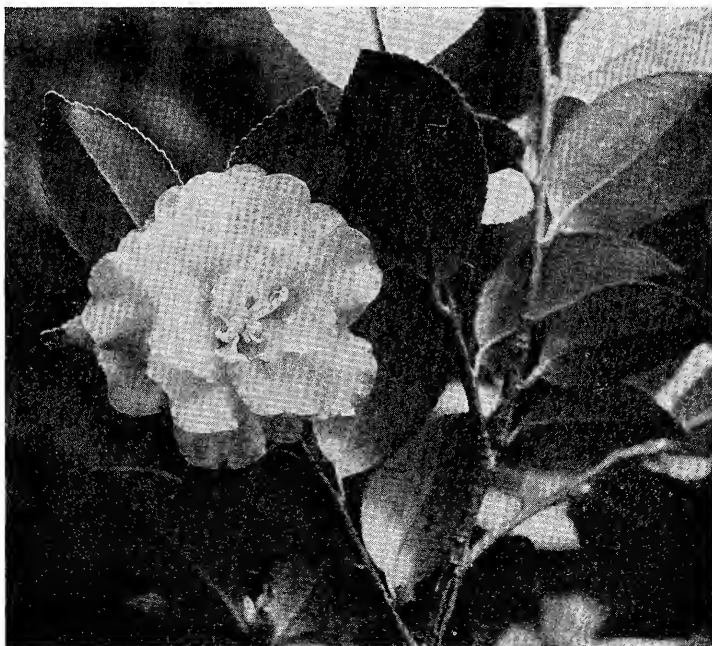


Fig. 2. *Camellia sasanqua* Thunb. var. *Kantsubaki* Tuyama, from the tree as of Fig. 1.

Camellia sasanqua Thunb. cv. *shishigashira* Fukui, Journ. Japan Horticultural Society no. 59: 24 (1894).

Syn. *C. sasanqua* Thunb. cv. '*Kantsubaki*' in Minagawa, *Camellia flower collections*, ed. 1 (1933); Tuyama et Futakuchi, *Camellia cultivars of Japan*, p. 400, t. 227 (1966).

Botanical name は以下の通りである。

Camellia sasanqua Thunb. var. *Fujikoana* Makino in Journ. Jap. Bot. 7: 3 (1931).

Syn. *C. hiemalis* Nakai in Journ. Jap. Bot. 16: 695 (1940).

中井教授によると (1940), 「15年ほど前から, 中国の上海から多量に輸入され始めた」という。このことは国立科学博物館の「自然科学と博物館, つばき特集号」〔Natur. Sci. & Mus. 17 (1, 2), 1950〕にも繰り返えて述べられているが, 今は裏付けが得られない。小生は四国の西岸一帯のヤブツバキを調べたことがあるが, シンガシラの大型の樹を多く見た。山崎富佐子・箱田直紀 (東京農工大) 氏によると関西方面以西には相当な巨木があるとのことで中井先生の近年輸入説は信じ難い。

追記 日本園芸会雑誌59号(1895, 明治27) p. 24 の再録。

「大阪府豊島郡細河村, 河村群芳園 会員福井萬右衛門: 茶梅獅子頭 ^{サザンカ} 中紅八重中輪にして枝梢傘形をなし, 盆栽に適す。」

なお, 皆川家のカンツバキが関西方面での獅子頭であるのを知りつつ, あえて採用しなかったのは, 国際園芸植物命名規則に合う文献を発見しえなかったことと, ツバキの品種‘獅子頭’との混同を避ける配慮があったのである。 (文京区 XXXXXXXXXX)

□Croasdale, H. & E. A. Flint: **Flora of New Zealand desmids**, Vol. II i-x+147 pp., plates 28-61. 1988 Botany Division, D.S.I.R., Christchurch, New Zealand. NZ\$ 57.50. ニュージーランドの淡水産緑藻ツヅミモ類のフロラの研究が3巻になって刊行されつつある。本書はその第2巻で, *Actinotaenium*, *Cosmarium*, *Cosmo-cladium*, *Xanthidium*, *Spinoclosterium* (いずれも Placoderm ツヅミモ類) の5属, 計267分類群を扱う。属, 種・変種等の検索に続き, すべての種, 変種等について異名, 特徴, 採集地, 生育状態, 地理的分布等が記述され, さらに顕微鏡観察による線画が図版に描かれる。本文147頁の約2/3は上記の分類についての記述で, 残りは採集156地点の名称, 地図, 生態条件, 採集者名, 採集年の記述, 及び約400の文献と索引等で占められる。採集場所16地点の景観カラー写真17葉は美しく, この道の先達4人 J. Ralfs, W. M. Maskell, C. F. O. Nordstedt, H. L. Skuja の略伝を扱った余白頁の埋草記事は楽しい。ニュージーランドのこの方面の研究が未だ十分でないだけに, 本シリーズ刊行の意義は大きい。なお, 先に刊行を見た第1巻には *Cylindrocystis*, *Mesotaenium*, *Netrium*, *Roya*, *Spirotaenia* (以上 Saccoderm ツヅミモ類), *Closterium*, *Euastrum*, *Genicularia*, *Gonatozygon*, *Micrasterias*, *Penium*, *Pleurotaenium*, *Tetmemorus*, *Triploceras* (以上 Placcoderm ツヅミモ類) の14属が扱われ, 今後刊行の第3巻には *Staurostrum*, *Staurodesmus*, *Arthrodesmus* (いずれも Placcoderm ツヅミモ類) の3属が扱われる予定である。著者はいずれも同じであるが, 第1巻の出版元は下記のようなのである。Government Printing Office, Publishing Warehouse, PO Box 14-277, Kilbirnie, Wellington, New Zealand. (千原光雄)

□中内正夫 ほか(編): **英語表現べからず辞典** 260 pp. 1986. 南雲堂, 東京. ¥1,500. 英語を使ったり書いたりするとき, 何度調べてもどれが正しいかわからなくなるごく普通の記述法や, 何の気なしに使ってしまうあたりまえの単語を, 「こういうのはいけない, こういうふうには書きなさい」と, 560の単語や例文が各頁に2,3例ずつ示されている。冠詞や前置詞などは同じ単語の異なる用例がいくつも出ていて, 論文を書くとき有用である。各例にはかなり詳しい文法上の説明や類例が記されており, ソフトカバーの小型本なので, 通勤時の読物としてもたいへんためになる。 (金井弘夫)